

# 甲南41年ぶり花園

## 全国高校ラグビー鹿県予選

第86回全国高校ラグビー大会鹿兒島県予選最終日は12日、鹿兒島市の県立鴨池陸上競技場で決勝があり、甲南が鹿兒島玉龍を19-18の1点差で制し、41年ぶり4度目の全国大会(花園)出場を決めた。全国大会は12月27日、東大阪市の花園ラグビー場で開演する。(3面に甲南・窪岡壮吾監督の「かお」)

## 鹿玉龍に19-18

▽決勝

甲南 19 7 13 18 鹿玉龍

TCG前 TCG後 計  
鹿玉龍 12 5 13 10 0 5 18

【評】甲南は前半4分

PGを失敗したが、10分

に持ち出し先制トライ。前

半は逆転されて折り返した

が、後半5分にモールを押し

# 心体結束し押し込む



【決勝 甲南-鹿兒島玉龍】前半10分、甲南のナンバー8内村(下)が突破し、ゴール中央に先制トライ

鹿玉龍は前半12、21分にPGを決め追い上げた。終了間際に素早いパス回しで外に展開、快足WTB坂元がトライし、前半を13-7

間入丸村西場保村川後藤本内藤崎  
中新米中内馬久内吉野山宮下野  
【甲南】FW HB BB  
【鹿玉龍】FW HB BB  
永山崎口坂畑山口留山口田 元場  
宮森松山宮川植瀬福竹折野 坂脇  
▽交代【甲】末永(新人)瀬戸山  
(中村)川中(内西)田畑(下堂)

が、後半5分にモールを押し込んだ後、最後にFL久保が飛び込んで、ゴールも成功し14-13と逆転した。14分にもモールからH.O.瀬戸山がトライし、突き放した。最後まで全員が粘り強いタックルで鹿玉龍の反撃をしのいだ。

とリードして折り返し。13-19で迎えた後半21分にはナンバー8瀬戸口が力強い突破でトライ、1点差に迫った。24分と終了直前にPGで逆転を狙ったが、ボール横をそれ及ばなかった。

「決勝までにハードな戦り合いを経験していなかった」と細松勇監督。準決勝までの1試合平均得点10.7、失点0という圧倒的な勝ち上がり方が裏目に出た。「もっと面白いラグビーを披露するつもりだったのだが、力を出し切れなかった」と話した。

どちらが勝ってもおかしくない、激戦だった。後半ロスタイム。入れば逆転優勝の鹿玉龍のPGはゴールポストわずか横にそれ、直後にノースайд。1点差で逃げ切った甲南フイフティーンが飛び上がった、歓喜を爆発させた。

風下の前半にボールをキープし続ける安全策となり、トライにもつなげた。さらに前半はモールが腰高になっていたため、後半は低く修正した」とFWリーダーの馬場は話す。

「瀬戸口は甘さがあった。大学に進学してラグビーを続ける」。ぐっと悔しさをのみ込んだ。

1点差だったが、甲南は試合を押し気味に進めた。試合のたびにビデオを分析し、修正していく窪岡壮吾

体格で勝る鹿玉龍FWを押せたのは「腕で互いの体を結束させる」バインドの強さ」とナンバー8の内村、PRの米丸は口をそろえる。モールの進行方向を変えながら巧みに前進する

など、1年半かけて練習した(内村)「まともである動きは全員が体で覚えていた」。

## HIGHLIGHT ハイライト

監督の作戦は選手に浸透。ボールへの速い寄せ、局面に応じたキックなど、選手は戦い方を意思統一し、組織的に動いた。モールの使い方では選手みずから考えて、試合中に修正できるほどだった。

2年ぶりに3年生が最後まで残った戦い。FL久保は後半5分に絶叫とともに、敵陣の中に入った。花田に出場に向けた3年生の気迫を象徴していた。体も心も「結束」した

選手たちによって、41年ぶりの花園出場という快挙はもたらされた。(運動部・角倉貴之)

「FW周辺のサイドアタックで活路を開くつもりだったけど、モールが押せたので、(FWに)そのまま押させた」とSHの古川。

運動部・角倉貴之